

事務事業名	下水道事業計画管理事務	事業期間	2018 ~	年度	係内番号	01
担当部署	都市建設部	水道課	庶務経営係	連絡先	652	

政策番号	05	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0302	下水道の整備方針		
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0302	下水道の整備方針		
			実行計画	12	下水道中期ビジョン（下水道事業特別会計）	0304	経営基盤の強化		

予 算 事 業 名	下水道事業の全体計画、事業実施計画、事業認可等の取得など、下水道事業を実施するために必要となる計画管理業務です。事業認可を取得するためには、必要な図面（今後数年間の事業計画を定める計画書及び計画図）を作成し、県と協議を行った上で、事業計画の協議をする必要があります。それらの計画を管理する業務です。	会計コード	22	款	01	項	02	目	01	事業	04
-----------	---	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)

現状と背景
(どうして)

諏訪湖の水質保全や快適な生活環境に欠かすことのできない下水道は、事業を行う前に県等の計画との整合性を図った全体計画・事業計画を策定した上で、どこを整備するかといった事業の認可を受けるなど、計画の管理が必要です。

目的

受益者 (誰のために)

下水道区域計画内の市民

対象 (直接働きかける)

下水道事業

意 図 (どんな状態にしたいか)

事業計画を策定し、下水道の利用が可能になる区域、人口の計画を策定する。

手段・方法
(どうやって)

区域別戸数調査、地形調査、管路計画、流量計算など計画策定のための調査、設計。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	下水道計画区域の調査	計画区域調査	h a	市内全域の下水道計画区域の見直し
	2	下水道計画区域の調査 (H28ND)	計画区域調査 (H28ND)	h a	下水道事業計画面積 (平成29年度変更分)	2,809
	3					
	変更履歴					
成果指標	成果・効果は何？		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	1	下水道計画区域 (案) の策定	計画面積割合	%	下水道事業計画面積 / 下水道全体計画面積	100
	2	下水道計画人口	計画人口割合	%	下水道事業計画人口 / 行政区域内計画人口	100
	変更履歴					

実 施 状 況	項 目	単 位	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等 (a)	円	0	0	
財 源 内 訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円	0	0			
	一般財源	円					
活 動 指 標	計画区域調査	目標	h a	3,246	3,246		
		実績	h a	3,246	3,246		
		達成率	%	100.00	100.00	-	-
	計画区域調査 (H28ND)	目標	h a	2,809	2,809		
		実績	h a	0	0		
		達成率	%	0.00	0.00	-	-
-	目標	-					
	実績	-					
成 果 指 標	計画面積割合	目標	%	100	100		
		実績	%	0	0		
		達成率	%	0.00	0.00	-	-
	計画人口割合	目標	%	100	100		
		実績	%	0	0		
		達成率	%	0.00	0.00	-	-
備 考							

事務事業名	下水道事業計画管理事務	事業期間	2018 ~	年度	係内番号	01
担当部署	都市建設部	水道課	庶務経営係	連絡先	652	

事業 評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果動向指標要因分析	今回の事業に対する計画変更は不要となった。				
	総合評価	特になし				
	課題	事業内容に基づき、県との協議により事業計画の認可変更の可否が決定するが、事業実施の詳細内容によっては変更が不要となるケースもある。				
改革・改善の方向性(ACIT)	翌年度方向性	成果 コスト	拡充 拡大			
	改革やコストの方向性の内容	令和2年度下水道事業全体計画の変更に併せて取り組むことになる。				

作成担当者	小松輝彦				
最終評価責任者	柳沢昭弘				
最終評価年月日	2019年5月17日				

事務事業名	下水道事業経営管理事務	事業期間	～	年度	係内番号	03
担当部署	都市建設部	水道課	庶務経営係	連絡先	652	

政策番号	05	基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0302	下水道の整備方針	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高				
		基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0302	下水道の整備方針						
		実行計画	12	下水道中期ビジョン（下水道事業特別会計）	0304	経営基盤の強化						
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称						
予 算 事 業 名	下水道事業の財政計画、財源確保、経理など、下水道事業を運営するために必要となる経営管理事務です。						会計コード	22	款	項	目	事業
事務事業の概要	（簡潔にわかりやすく）											
現状と背景	（どうして）											
目的	受益者	下水道使用者										
	対象	下水道事業										
	意 図	健全な事業経営										
手段・方法	（どうやって）											
	下水道事業の財政計画、建設財源の確保、経理など下水道事業の経営管理を行います。 (1) 財政計画の策定（投資計画、維持管理計画、使用料設定 他） (2) 予算・決算の作成 (3) 使用料の設定・改定 (4) 国庫補助金申請・起債借入等による建設財源の確保 (5) 経理事務											
評価指標の作成	活動指標	1	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値					
		1	財政計画の策定	非基準外繰入率	%	100-基準外繰入金/総繰入金×100	100					
		2										
	3											
	変更履歴											
	成果指標	成果・効果は何？		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値					
1	使用料収入による汚水処理費の回収	使用料回収率	%	使用料収入で汚水処理費（維持管理及び資本費含む）を賄うことができる割合	100							
2	決算	経常収支比率	%	経常収益/経常費用	100							
変更履歴												

実 施 状 況	財 源 内 訳	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
		事業費等(a)	円	1,496,913,965	1,530,768,000				
		国庫支出金	円						
		県支出金	円						
		地方債	円						
		その他特定財源	円	776,913,965	775,768,000				
	活動指標	非基準外繰入率	目標	%	100	100			
			実績	%	100				
		達成率	%	100.00	-	-	-	-	
		-	目標	-					
			実績	-					
		達成率	%	-	-	-	-	-	
成果指標	使用料回収率	目標	%	100	100				
		実績	%	140					
	達成率	%	140.00	-	-	-	-		
	経常収支比率	目標	%	100	100				
		実績	%	122					
	達成率	%	122.00	-	-	-	-		
備 考									

事務事業名	下水道事業経営管理事務	事業期間	~	年度	係内番号	03
担当部署	都市建設部	水道課	庶務経営係	連絡先	652	

事業 評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果				
	コスト					
課長評価日						

事業 後 評価 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	～成果変異動指標要因分析	使用料回収率に見合った投資費用とのバランスを図り事業を進めることが重要となる。				
	成果	将来に向けての老朽管等の維持管理費用等の確保など、健全化経営のもと一定の利益を得ている。				
	総合評価課題	現在、単年度及び累積欠損も生じていない状況であり、一般会計からの繰入金や起債残高も減少傾向にあり、今後も現状の事務事業を継続していくことが必要である。(雨水浸水対策事業に伴い繰入金は増加している。)				
	改革・改善の方向性(ACIT)策び内容	翌々年度方向性	成果	現状維持		
コスト	現状維持					
改革・改善の方向性(ACIT)策び内容	成果	今後、管きよの長寿命化等の事業が必要であり、より一層のコスト意識を持って、事業を計画的に、かつ継続的に進めることが必要となる。				

作成担当者	小松輝彦				
最終評価責任者	柳沢昭弘				
最終評価年月日	2019年5月17日				

事務事業名	諏訪湖流域下水道処理場等建設費負担金	事業期間	1971 ~	年度	係内番号	04
担当部署	都市建設部	水道課	庶務経営係	連絡先	652	

計 画 目 的 意 図 （ ど う や っ て ）	政策番号	05	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中					
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0302	下水道の整備方針								
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0302	下水道の整備方針								
			実行計画	12	下水道中期ビジョン（下水道事業特別会計）	0304	経営基盤の強化								
予 算 事 業 名							会計コード	22	款		項		目		事業
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	諏訪湖流域下水道は、昭和46年に諏訪湖に代表される公共用水域の水質保全、生活環境の整備を目的として事業に着手されました。現在、立科町が加わり3市3町1村が処理区域として事業が継続されています。諏訪湖流域下水道は、いくつもの市町村が共同で汚水を処理するため、県が主体となり処理場等を建設し、その事業費に対して構成市町村が計画面積、計画汚水量の割合で建設費を負担しています。														
現状と背景 （どうして）	諏訪地域は、各市町村の汚水を諏訪市の豊田処理場で処理する流域下水道を採用しているため、県が主体で進める処理場等の事業に対する費用を負担する必要があります。														
目 的 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	受益者 （誰のために）	下水道区域内の住民													
	対象 （直接間きかける）	公共下水道から排出される汚水													
	意 図	諏訪湖に代表される公共用水域の水質保全、快適な生活環境の実現													
手 段 ・ 方 法 （ ど う や っ て ）	処理場等の老朽化に伴う突然の停止等の予防として、長寿命化対策を行うなど施設の延命化を図りながら、改築更新を進めていきます。建設費負担金は、構成市町村がその事業に対して負担するものです。														
活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値										
	諏訪湖流域下水道維持管理運営協議会（幹事会）への参加	協議会出席回数	回	協議会の開催回数（年間）	2										
変更履歴															

実施状況 (DOC)	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	33,793,875	80,725,000	
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円	28,000,000	69,000,000			
	その他特定財源	円	5,793,875	11,725,000			
活動指標	協議会出席回数	目標	2	2			
		実績	2				
		達成率	100.00	-	-	-	-

事後評価 (CHECK)	項目	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
		総合評価	成果 諏訪湖流域関連茅野市公共下水道は、本市下水道のすべてをカバーしている。今後も、流域下水道事業に必要な建設事業に対して負担していくことが必要。 課題 計画面積割が建設費負担金の算定根拠となるが、機会があれば建設費負担金の算定について、計画汚水量割100%となるように協議をすることが必要である。			
改革・改善の方向性 (ACT)	翌々年度方向性	成果 現状維持 コスト 現状維持				
	改革・改善の方向性	成果 諏訪湖流域下水道は、本市の汚水処理を行っていくために不可欠の事業であるため、流域下水道の建設事業については、今後も継続していく必要がある。県が事業主体であるが、多額の負担金を支出していることから、より効率的な事業運営ができるように促進協議会などで意見交換を重ねていく。				

作成担当者	久保田好康
最終評価責任者	柳沢昭弘
最終評価年月日	2019年5月17日

事務事業名	諏訪湖流域下水道処理場等維持管理費負担金	事業期間	1979 ~	年度	係内番号	05
担当部署	都市建設部	水道課	庶務経営係	連絡先	652	

計 画 目 的 意 図 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	政策番号	05	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中		
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0302	下水道の整備方針					
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0302	下水道の整備方針					
			実行計画	12	下水道中期ビジョン（下水道事業特別会計）	0304	経営基盤の強化					
予 算 事 業 名							会計コード	22	款	項	目	事業
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	流域下水道を維持管理する長野県に対し、本市の公共下水道から流入する汚水量（有収水量）に応じて流域下水道施設の維持管理費を負担しています。											
現 状 と 背 景 （ どう して ）	諏訪地域は、各市町村の汚水を諏訪市の豊田処理場で処理する流域下水道を採用しているため、県が処理場等の維持管理をしています。そのため、構成市町村からの汚水の流入量に応じて維持管理費を負担しています。											
目 的 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	受 益 者 （誰のために）	下水道区域内の住民										
	対 象 （直接働きかける）	公共下水道から排出される汚水										
	意 図 （どんな状態にしたいか）	諏訪湖に代表される公共用水域の水質保全、快適な生活環境の実現										
手 段 ・ 方 法 （ どう や っ て ）	構成市町村から排出される汚水は、県が管理する豊田処理場に集約され、効率的に、かつ高度な処理を行っています。維持管理負担金は、構成市町村がその事業に対して負担するものです。											
活 動 指 標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値							
	諏訪湖流域下水道維持管理運営協議会（幹事会）への参加 変更履歴	協議会出席回数	回	協議会の開催回数（年間）	2							

実 施 状 況 （ D O ）	項 目	単 位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	事 業 費 等 (a)	円	458,061,261	496,540,000				
	財 源 内 訳	国 庫 支 出 金	円					
		県 支 出 金	円					
		地 方 債	円					
		そ の 他 特 定 財 源	円	458,061,261	496,540,000			
活 動 指 標	目 標	回	2	2				
	実 績		2					
	達 成 率	%	100.00	-	-	-	-	

事 後 評 価 （ C H E C K ）	項 目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成 果	諏訪湖流域関連茅野市公共下水道は、本市下水道のすべてをカバーしている。今後も、流域下水道事業に必要な維持管理費に対して負担していくことが必要。				
改 善 の 方 向 性 （ A C T ）	課 題	負担金は維持管理に要する経費と有収水量をもとに単価を設定するため、人口減少や節水意識等による有収水量の減少に伴う単価の値上げが懸念される。				
	改 善 策	現状維持				
改 善 の 方 向 性 （ A C T ）	成 果	現状維持				
	改 善 策	諏訪湖流域下水道は、本市の汚水処理を進めるうえで不可欠な事業であるため、流域下水道の維持管理費については、今後も継続して負担していく必要がある。県が事業主体であるが、多額の負担金を支出していることから、より効率的な事業運営ができるように促進協議会などで意見交換を重ねていく。				

作成担当者	久保田好康
最終評価責任者	柳沢昭弘
最終評価年月日	2019年5月17日

事務事業名	白樺湖下水道組合施設等維持修繕費負担金	事業期間	2018 ~	年度	係内番号	03
担当部署	都市建設部	水道課	下水道管理係	連絡先	657	

計 画 目 的 的 意 図 （ ど う や っ て ）	政策番号	05	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中		
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0302	下水道の整備方針					
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0302	下水道の整備方針					
			実行計画	12	下水道中期ビジョン（下水道事業特別会計）	0304	経営基盤の強化					
画 （ 予 算 事 業 名 ）	予 算 事 業 名						会計コード	22	款	項	目	事業
（ 事 務 事 業 の 概 要 （ 簡 潔 に わ か り や す く ）	下水道終末処理場（白樺湖浄化センター）、場外ポンプ施設及び下水道管渠等の下水道施設の維持管理を1市1町で負担しています。											
（ 現 状 と 背 景 （ ど う し て ）	白樺湖浄化センターは昭和56年3月の供用開始から37年が経過していますが、場外ポンプ場施設を含めてコストを抑えた適切な維持管理（清掃・点検・補修・修理）が求められています。平成28年3月末には諏訪湖流域下水道へ接続、供用が開始されましたが、引き続き、場外ポンプ施設等は使用することから維持管理に伴う費用を負担する必要があります。											
目 的 的 意 図 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	対象	受益者 （誰のために）	下水道使用者（茅野市及び立科町の一部）									
	対象	対象 （直接働きかける）	下水道施設									
	意図	破損、閉塞、故障、陥没事故等がなく、汚水を問題なく流下処理できる状態を保つ。快適な生活環境を実現										
（ 手 段 ・ 方 法 （ ど う や っ て ）	場外ポンプ施設等の不具合箇所の随時補修・修繕などの維持管理を行い、必要な費用を構成市町が負担をするものです。											
活 動 指 標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値							
	予算・決算時の内容審査	審査数	回	予算・決算期に負担金の内容精査を実施	2							
変 更 履 歴												

実 施 状 況 （ D O ）	項 目	単 位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	事業費等(a)	円	9,418,737	14,119,000				
	財 源 内 訳	国庫支出金	円					
		県支出金	円					
		地方債	円					
		その他特定財源	円	9,418,737	14,119,000			
活 動 指 標	目標	回	2	2				
	実績		2					
	達成率	%	100.00	-	-	-	-	

事 後 評 価 （ C H E C K ）	項目	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	総合評価	老朽化している場外ポンプ場施設の点検・清掃を行い、修繕やオーバーホール等最善の方法で対応し、大きな故障にならないよう備えていく。				
改 善 の 方 向 性 （ A C T ）	課題	現存する中継ポンプ場施設の必要最低限の補修・修繕をおこないながら維持管理を行っていく必要がある。				
	改革の方向性	処理場については平成27年度末に諏訪湖流域下水道へ接続され、現在は中継ポンプ場の維持管理が主な業務となり、出来るだけ費用をかけないよう施設維持に努める。				
改 善 の 方 向 性 （ A C T ）	成果	現状維持				
	コスト	現状維持				
改 善 の 方 向 性 （ A C T ）	成果	処理場については平成27年度末に諏訪湖流域下水道へ接続され、現在は中継ポンプ場の維持管理が主な業務となり、出来るだけ費用をかけないよう施設維持に努める。				
	コスト					

作成担当者	竹上 賢吾			
最終評価責任者	柳沢 昭弘			
最終評価年月日	2019年5月17日			